

2017 年度 立命館大学・大学院入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご家族の皆様、ご子息、ご息女のご入学、おめでとうございます。

また、学部での勉学を終え、さらに、大学院に進んで、高度な勉学へと向かわれる皆さん、ご進学、おめでとうございます。

立命館大学長として、皆さんを心から歓迎いたします。

本年度、立命館大学には、7,894 人の新入生を迎えました。

また、大学院には、1,061 人の皆さんが進学しました。

さらに、世界 27 カ国・地域から、541 人の留学生が入学しました。

このように、立命館大学・大学院は、全国、そして世界から、学ぶ意欲にあふれた多くの新入生を迎えました。皆さんには、これからこの仲間たちと存分に学び、切磋琢磨していただきたいと思います。

20 歳前後は成長がもっとも著しい、貴重な期間です。大学生・大学院生としての時間をどの様に過ごすかで、その後の人生が大きく変わると思います。今日この入学式の場から、一日一日の大切さを胸に刻み、学業や課外活動に励んでいただければと思います。

また、健康にも関心を持ってください。20 歳前後に作りあげられた身体は、生涯の糧になります。何事をなすにも健康であることが前提です。体育会、またサークル活動を通じたスポーツ活動や、本学内のトレーニングジムの利用など、様々な機会をとらえ、健康づくりに励んでください。

学生時代は、思い悩むことの多い時代でもあります。もとより、悩みは、人生のいつの段階でも伴います。しかし、様々な意見や考え方に触れ、共に悩みを語り合えるような、生涯の友人を見つけられるのが、大学であり、学生時代です。

大学は、一人で学ぶ場所ではありません。本学は、全国、そして、世界の多様な地域、国々で育った学生が学んでいます。入学生の約半数は、近畿圏以外の出身です。実に多様性に富んだ環境の中で、今このスタートラインに皆さんが立っているのです。このことの意義を理解して、さまざまな文化、言語、価値観に触れ、自らと異なるものを積極的に吸収してください。

立命館は、近年、「Creating a Future Beyond Borders 自分を超越る、未来をつくる」という言葉を、学園の進むべき方向を示す言葉として用いています。ここには、国境、人種、宗教、性別、価値観、言語などのさまざまなボーダーを越えて行ってほしいと

いう思いが籠められています。同時に、自分の限界にもチャレンジして行ってほしいという願いもこめています。Borderにとらわれることなく、自分自身の成長や周囲の人、そして社会の成長・発展に貢献する人となることを目指して欲しいと思います。授業、課外活動、留学、最新の教育研究施設をはじめ、立命館大学・大学院は、そうした皆さんの成長につながる様々な機会を、これからも提供し続けていきます。

世界をとりまく状況は大きく変化しています。イギリスやアメリカに代表される変化を、孤立主義・排外主義・自国中心主義の動向と捉える向きもあるかと思えます。しかし、国境を越え、地域を越えて人や財貨、情報が行き交うグローバル化の流れは、今後さらに進むことになるでしょう。私たちは、どこにいても世界とのつながりと無縁な生活を送ることは考えられません。

グローバル化の時代において、コミュニケーションツールとしての外国語の能力は当然必要であり、学生時代にしっかりとその能力を獲得してほしいと思います。そして、外国語の能力とともに、世界と日本に関する深い教養を身に付けてください。立命館では、各学部・研究科での学びのほか、国際教養科目をはじめとする、全学一体の取り組みとして、皆さんが教養を身につけることができる教育を展開しています。積極的にチャレンジしてください。

また、皆さんが生きて行く時代は、知識や情報が次々と更新される社会です。このような知識基盤社会で求められる能力は、すぐに役立つ知識ではありません。思考力、判断力、そして表現力など、どのような変化にも対応できる基礎能力、そして、どのような状況においても、学び続け、自己成長を続けようとする意欲が重要になります。講義やゼミ、研究室での議論は、そうした「学び方を学ぶ機会」であり、生涯にわたり通用する力量を育む大切な場です。卒業時に成長を実感できるよう、積極的に取り組まれることを期待します。

また、多くの書物に触れる機会も、このような能力や豊かな人間性を育むうえで重要になります。是非図書館を利用し、読書の習慣を大切にしてください。

皆さんの手元にあるクリアファイルは、まさに新しい世界に船出しようとする姿をRPGに重ねて描かれたものです。「世界とまみれて、世界を変える」という志をぜひ一人ひとりが強く心に留めて、大いに学んでもらいたいと思います。

立命館は「未来」という言葉を大切にしています。元総長の末川博先生が述べられた有名な言葉に「未来を信じ、未来に生きる」という言葉があります。しかし、大事なことは、時間の経過に従って、ただその時代に生きるということではなく、主体性を持って、新しい未来を創造するような生き方をすることです。皆さん一人ひとりが、次の時代を担っていく主人公なのです。

未来という場合、誰もが平和な未来を望んでいます。世界には、なお、紛争が絶えません。また、「平和」とは、単に戦争のない状態だけを言うわけではありません。貧困やテロ・難民問題、環境・エネルギー問題、気候変動、人口増加など、世界的な枠組みで解決をはかるべき深刻な問題を解決して得られる状態もまた、目指すべき大切な平和の一つであります。

今年は憲法施行 70 年という記念すべき年でもあります。「平和と民主主義」を教育と研究の理念に据える立命館で学ぶ皆さんには、このような平和な社会の実現のために何ができるかを考え続けてほしいと思います。

社会とは、私たちが互いに支えあって生きることから成り立ちます。日々消費しているものも、それを作ってくれている誰かがいるということを忘れないでください。そして、自分も自分なりのやり方で、困っている人に共感し、社会のためになろうという志を持ってほしいと思います。

そのためには、さまざまな場面に身をおいて、自分の目で課題を認識し、解決の糸口を模索することが必要です。「なぜ」という知的好奇心を大切に、答えを探求する学生生活を送っていただきたいと思います。

最後に、入学に当たり、立命館の意味を知ってほしいと思います。立命という言葉は、「妖寿たがわず、身を修め、もってこれを待つは、命を立つるゆえんなり」という孟子の尽心章句からきています。「命を立つる館」である立命館とは、「修養を積んで、人生を切り開いていく場所」という意味です。

皆さんは、この立命館で、人生の大切な一時期を過ごすこととなります。「立命」の意味をいつも頭の片隅に置き、日々の努力によって、かけがえの無い大切な人生が、在学中にさらに切り開かれ、輝かしいものとなることを願っています。

この願いを伝え、学長の祝辞といたします。

2017 年 4 月 2 日 立命館大学長 吉田美喜夫